

act 32-33

art, culture, tradition

[発行] 札幌市教育文化会館

アクト第32・33合併号

December 2019

夢
— 能の宇宙 —
幻



夢幻 — 能の宇宙

旅の僧の夢の中に現れた亡霊が過去を語り、夜明けとともに姿を消す—。神仏・鬼神・亡霊などの神秘的存在が登場し、私たちに語りかけてくれる夢幻能の世界。異界からの来訪者は人間の情念や運命の象徴であり、能には「人とは」という根源的なテーマが存在します。そんな能の世界観を、舞台とは違う形で表現してみようと試みたのが、今号の特集です。小樽在住の能面作家・外沢照章さんと、フラワーアーティストのYANASEさんによる能面と植物との競演は、どのような化学反応を起こすのでしょうか？ act版「夢幻(ゆめまぼろし)」をどうぞお楽しみください。

Photo : Hiroo Takatsu [STUDIO TAKE 2]



心

恋した男への永遠の執念。蛇体と化した女は炎で我が身を焼く。



怨霊面・蛇

美

極まる恋慕の情。一本の松に愛しい人の面影を見た女の狂乱の舞。



女面・孫次郎

神

天上を駆ける荒ぶる雷神・蔵王権現が、眩いばかりの光を放つ。



鬼神面・大飛出

夢幻 — 能の宇宙

2019年9月に札幌市教育文化会館で上演された「能楽なう」にて能面と花を組み合わせた展示をロビーで行って以来、2回目となる能面作家の外沢照章さんとフラワーアーティストのYANASEさんによるコラボレーション。今号で制作された3作品について、経緯やコンセプト、背景について語っていただきました。

— 札幌市教育文化会館は、「能楽なう」イベントとして札幌市民交流プラザのSCARTSスタジオで開催した能楽展示や、公演当日のロビーに設置された生花と能面を組み合わせた展示など、一風変わった能面の見せ方に挑戦しています。

札幌市教育文化会館(以下、教文):SCARTSスタジオの展示は「能に全く興味のない不特定多数の人たちにアプローチできるようなイベントを」と考えて生まれた企画です。若い人たちに「能楽って格好良いな、素敵だな」と感じてもらいたくて、学術的な見せ方というよりは、映像を組み合わせるなど能面の新しい見せ方、スタイリッシュな見せ方に挑戦した展示でした。今回はSCARTSスタジオに備わっている雰囲気なども取り込んだデザインを意識しています。このときの目標来場者数は500人ほどを想定していましたが、来場者によるSNSなどの影響で口コミが拡がり、最終的には倍以上の1350人が来てくれて。この方向性に手応えを感じつつ、能楽なう公演当日のロビー展示でまた同じことをするのも嫌だし、次はどうしようと思ったときに、頭に浮かんだのが庭園のイメージでした。普段私たちが見ることのできない能面と、建物の中に突如として出現した庭園という非日常を組み合わせることで、面白い展示になるんじゃないかなと思い、外沢さんとYANASEさんに協力していただきました。

外沢:能舞台でかけられる面(おもて)は江戸時代より前に作られたもので、舞台が終わるとお弟子さんが面の汗を拭き取り、乾燥させて即、蔵に戻します。能面は舞台の上でどれだけ生きるかという世界で、このように飾る発想は我々にはありません。なので、最初に話を聞いたときは私にも抵抗がありました。それでも教文さんがゲートを開くと切り開いたことが功を奏して、能面が現

代風にアレンジされて皆さんの前に出てきた。それを見て、これは面白いと思いました。

— 能面は、死者を死後の世界から引っ張り出すための依代※(よりしろ)であるという儀式的な要素も含んでいます。今回のコラボレーションでは、まず能における「死」の世界観があって、それに対して花は「生」ですから両極端にある。さらに能面による内面の変化、人間の明と暗みたいな対比が出ると面白いと思いました。作品を制作するにあたって、使用する能面の選択には時間をかけましたね。

外沢:能面には翁面、尉面、男面、女面、怨霊面、鬼神面があり、メインとなるのは女面と、深層心理を形にした怨霊面、それから鬼神面です。翁面は正月など特別なときだけ上演される「翁」に使用される面です。人間の情念や運命が悪い方向に走ると怨霊となり、良い方向に走ると神になります。能面には、本面に対して「写し」と呼ばれるコピーが二つあり、一つは万が一本面が燃えたりなくなったりしたときに代替わりします。もう一つは生徒さんが練習用として使います。現在の能面師と言われる方は、各流派が持っている面をメンテナンスするのが主な仕事です。能面は一つひとつに歴史を持っているんですね。流派ごとに大切にしているイチャオシの面があり、例えば女面ですと観世流の面は「若女」です。宝生流が「節木増」と呼ばれる面。金剛流が推す面は「孫次郎」、別名を「面影」と言います。金春流と喜多流は「小面」です。皆さんがよくテレビや雑誌で目にするのは小面だと思います。

— 今回使用した女面は「孫次郎」です。

外沢:孫次郎は私が最初に打った面で、本面が収蔵されている三井文庫別館を訪れて、ガラスケー

スの前でスケッチをして写しました。それで4つ作りましたが、やっぱり似ない。写せないんです。そのあとモデル面と型紙を取り寄せて再び組み組んで、撮影に用いたのは6作目の孫次郎です。

YANASE:花のイメージをふくらませるときに参照したのは「松風」です。お姫様の衣装には必ず赤が入るという決まり事を意識しつつ、朱赤だけではない、さまざまなバリエーションの赤を用いて構成しました。

— 「松風」の、恋慕の情のうねるような変化が感じられる作品だと思います。怨霊面は「蛇」を用いました。

教文:外沢さんの説明で、「蛇」は般若よりもっと高い怒りを示していて、あまりにきつい顔をしているので現在ではほとんど使われていないという点と、女性の嫉妬を表す面で「蛇」が最初にできたという点が印象的だった面です。

— 参照する物語は、般若の使用演目から特に『道成寺』の赤般若が「蛇」に似ているとことで、『道成寺』から花をイメージしてもらいました。さまざまな質感と形を持つグリーンを中心にしたデザインは、どのように発想されましたか?

YANASE:『道成寺』を読んでパッと頭に浮かんだのが「棘」で。葉を人工的に巻いて尖らせたり、棘のような部分を持つ植物を使ったりしています。撮影したのを見ると、この青っぽい緑と「蛇」との組み合わせがすごく良いと思いました。外沢:「蛇」の面が異次元から現れたような感じがしますね。これぞまさに「幽玄」です。

— 鬼神面は「大飛出」を用いました。

外沢:能は五つのプログラムで編成されているのですが、一番の中心は三番目物、女性の能です。

PROFILE

【能面作家】
外沢 照章 (そとざわ てるあき)

小樽在住。東京都出身。仕事をしながら42歳から面を打ち始める。現在までに打った能面の数は71種・100点。2009年より小樽市能楽堂に隣接した小樽市公会堂にて、毎年個展を開催している。(2020年は9月に開催予定)



【フラワーアーティスト】
YANASE

イベントでの装花演出やブランド・コラボレーションなど多数手がける。「想像を超え、無形の美を追求する」をコンセプトに日本の「鋭」・「凜」を追求。2018年、世界中のフローリストにインスピレーションを与えるドイツの雑誌「BLOOM's VIEW WORLD」にてTOP4に選出される。



能の宇宙において、女性という惑星が中心にあり、そこからずっと遠く離れたところにあるのが霊が集う惑星、そして、女性を挟んで対極に浮かぶ惑星が鬼神です。誰が見てもすぐに「神」とわかりやすいのは、金色で神々しさが出ている面ということで、「大飛出」を選んだのでしたね。

— 使用演目からは『嵐山』を参照してもらいました。植物の線を生かした表現が印象的です。

YANASE:人間には理解できない心境、考えてもわからない複雑さを、植物のうねりで出せるのかなと思いました。能面の光沢感が強いので、花はマットな感じにしています。伝統芸能には昔から守られている約束事や型があるので、実は、能面や物語に対して自分が自由に花を選ぶことへの懸念も最初ありました。でも、こういうものがあってもいいのかも途中から思えて、それが今回自分にとっての収穫でした。

外沢:私はむしろ殻を破りたいと思いました。何も能の中に収まる必要はない。決まりを意識した上で破れば良いと思う。YANASEさんの持つ術と、自分の能面がどうコラボレーションできるのか、お互いの持つものをぶつけ合っていくに融合させることができるのか、そこに私は期待していました。今回、YANASEさんのつくる花の芸術と組み合わせることで、能面の新しい魅力が写真に現れていて驚きました。これを多くの方に見てもらえると思うと、とても嬉しいです。

ARTIST'S WORK

今回ご協力いただいた二人の、これまでの作品をいくつかご紹介。それぞれの創作の背景にあるものとは？

「面を写すことを通して、能の深遠な世界に触れる」

— 外沢 照章

能面は250種類あると言われていて、そのうち基本形は92種類あります。私がこれまでに打ったのは71種・100点です。能の物語において、さまざまな感情が語られますが、一つの曲で用いられる面はたった一つか二つです。すると当然「なぜこの物語がこの面を使うのか」という疑問が出る。でも、物語に深く入り込むことで、髪の毛一本や目の角度にまで合点がいく瞬間が訪れます。その理由を探るのが面白いですね。役者が魂を込めて演じる、その一つひとつのステップにも全て意味がある。能面も、それらを知らずに作れば全然魂のこもらない面になるんです。



節木増 (ふしきぞう)

宝生流が推す若い女性の面。完成後、鼻筋の脇に出た木の節の脂でかえて美しさを増し、有名になった面。



小天神 (こてんじん)

天神は学問の神様として祀られる菅原道真に由来。強い神の役柄として「金札」「舍利」などに使用される。「カール髭など毛書が大変でした」と外沢さん。



生成 (なまなり)

「成る」は「化ける」という意味。角が鋭く伸びきっておらず、嫉妬の度合いが浅く般若になる前の状態を表している。生成に対して般若を半成、蛇を本成とも言う。

「一期一会の花材との、即興的な創作が面白い」

— YANASE

作品を制作するときは色のイメージから入るのですが、昔から刺激を受けているのはフレンチ料理の盛り付けです。ワンプレートの世界観で人を感動させられる点で、色彩感覚など学ぶところが多いです。花の世界は、例えば葉っぱのもの一つとっても質感から色合いまでさまざまです。毎回どんなものが入荷しているのかわからない状態で市場に行って、そこで初めて出会って即興的に組み合わせを考えるのが楽しい。個人的に好きなのは和の花です。作品を制作するときも、足し算ではなく引き算のデザインに惹かれます。今後もこういったコラボレーションをどんどんしていきたいです。



店舗情報

YANASE design.
MARUYAMA

〒064-0805 札幌市中央区南5条西25丁目1-8 スタジオシンク1F
TEL 011-522-9681 [営業時間] 10:00~18:00

2019.12.18wed NEW OPEN

[公式サイト] <https://www.yanasedesign.com/>



外沢照章・能面ギャラリー日記

外沢さんのこれまでの能面制作過程や展示会の様子を公開しています。是非、ご覧ください。

スマホからは、こちらのQRコードよりご覧ください。

<http://kitutukione.blog97.fc2.com/>

